

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	職業人としての基礎的な力の育成
			地域社会とつながりながら生きる力の育成
			働きやすい職場、一人一人が成長でき組織づくり

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
職業人としての 基礎的な力の育 成	○授業改善 ～「協働性」を高める～	○計画的な教科グループでの話し合いや授業公開、および授業実践シートの作成等を行うことで、教職員の授業改善への意識が高まってきた。 ○近年の人事異動により様々なキャリアの教職員が在籍しており、教職員の専門性の技術の伝達が求められる。	○生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研究会を設定し、授業展開や重点事項等について教職員で共有する。 ○外部講師を招聘し、協働性を高めるための手立てや活動の工夫についての研修会を行う。 ○授業研究会を行い、授業を振り返り、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。(就労準備性チェックリストの実施)			
	○職業教育・進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○専門教科の中心であった教職員の多くが異動したことで、専門教科担当の教職員の専門性や指導力、就労に対する意識は様々である。	○専門教科の各コースの教職員が「一般就労」という目標を持ち、必要な知識や技術を身につけ、生徒の指導にあたっている。	○指導方針や指導方法等について共有できるよう工夫したコース会を実施する。 ○研究・研修担当と連携した授業改善に取り組んだり、進路部と情報共有して研修を行ったりする。			
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	○（１年生）自分の良さと課題を理解している。 ○（２年生）自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 ○（３年生）自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団や学科部と進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を高めるために、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。			
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○夜、スマホを利用することによって、就寝時刻が遅くなる生徒がいる。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる。	○生活の自己管理ができ、睡眠時間の確保ができている。	○睡眠等に関するアンケートをとり、指導活用していく。 ○「我が家のルール」を活用したり、個人懇談等を通じたりしながら保護者と情報共有をして指導していく。			
		○昨年度は、挨拶や返事、言葉遣いについて、８～９割の生徒が意識して取り組んでいた。継続して指導し、定着につなげていく。 ○生徒は自分の課題に意識して取り組んでいる。将来の進路実現に向けた課題解決策として、周りの生徒と協力したり、教師による指導・支援を受け入れたりすることが必要である。	○生徒同士が互いに認め合い・支え合い・励まし合いをすることを通して、自分の目標に取り組んだり、行動の課題の改善することに取り組んだりする。	○学年集会で生徒が主体的に活動したり、特別活動の時間でグループワークなどの生徒同士での活動を設ける。 ○基本的生活習慣や規律、学習態度など、学級内で振り返る機会を設定する。 ○「できる」「わかる」授業の実践を通して、生徒同士が伝え合ったり教え合ったりする授業づくりを行う。 ○生徒の活躍やがんばりを、学年通信や学校ホームページなどで紹介する。			
		○生徒の災害や防災に関する意識や判断力は高くなく、その向上についての取り組みが求められる。	○年度当初に比べて災害や防災に関して意識することが増えている。	○防災教育講演会や避難訓練の中で防災意識向上のための取り組みを行う。 ○「デジ防災」を活用した学習活動を実施する。			
		○昨年度から行っている「認め合いの木」の取り組みで、場面に応じて自主的により良い行動をとることができる舎生も何名か見られるようになってきているが、全体的な数は多くない。	○寄宿舎の生活の中で、周りの状況を見ながら、自主的に行動している。	○「認め合いの木」の取り組みを通して、より良い行動を全体に周知することで、舎生自身がいろいろな場面でより良い行動ができるように促し、その定着を図る。			
	○学校運営協議会の活用 ・地域連携・企業連携の充実	○昨年度、２回の会議を実施した。会議以外にも卒業式に来賓として参加していただき、より学校の様子を知っていただくことができた。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受け、本校の魅力発信へとつなげていく。	○引き続き地域や企業の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。			
		○昨年度は、企業を対象とした学校公開「企業参観日」が一度しか実施できなかった。 ○企業とのつながりを保つ工夫が不十分である。	○年間を通して実習先の１０～１５％の企業が新規開拓企業である。 ○企業参観日を年間１０回以上実施し、現場実習の受け入れに繋がっている。	○関係機関との連携やデータベースの活用を通して、積極的に企業新規開拓を行う。 ○企業参観日の案内を積極的に行う。 ○本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行ったり、生徒とのマッチングに繋げるために企業のニーズを吸い上げたりする。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。			
	○自治的活動の推進 ～生徒が考え、社会をつくる～	○学校生活に対して自分なりの考えを持っている生徒が多く、前年度の生徒アンケートでは全体の３割が学校生活を楽しくないと答えている。 ○気持ちの乱れにより規範意識が低い生徒がいる。 ○自治的活動に関心を持ち、自主的に活動に取り組もうとする生徒が少ない。	○よりよい学校生活を築くために生徒が自発的に問題点や課題等を見だし、長所や短所を踏まえて改善策を考えている。	○生徒会執行部を中心に生徒の意見を集約・整理・問題提起等する活動を通して、社会づくりの主体であることを実感させる。 ○生徒総会を年間２回実施し、学校生活の問題点や課題等を考え、長所や短所を踏まえて話し合う場を設ける。			

様式 2 地域社会とつながりながら生きる力の育成		○琴海会三役は、指示されたことは協力的にできるが、主体的に行事や活動を企画・運営していくところまでは達していない。また、他の舎生は行事の運営に関わる場面は少なく、課題となっている。	○琴海会三役及び他舎生が自分の役割を理解し、行事や活動の企画・運営に関わっている。	○行事や活動ごとに実行委員や係を設け、舎生が役割を持って取り組めるようにする。また、アイデアを出し合いながら可能な限り自分たちで企画し、運営に関わっていけるよう支援をする。			
		○例年に比べ、部活動に参加する生徒が減少している。 ○部活動で運動したり文化活動をしたりたいと考える生徒も一定数いるが、JRでの帰宅時間の関係で参加できない生徒が多い。 ○イベントや大会に参加する生徒が増加してきた。	○休日や余暇の時間に、運動をしたり文化活動をしたりする生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている	○部活動の参加だけでなく、休日などの余暇時間を上手に使えるようにするため、イベントや大会の情報を掲示する。 ○部長会の活性化を進め、生徒が主体的に活動できるようにする。 ○地域のスポーツクラブや文化活動を紹介し、参加できる生徒を増やす。			
	○啓発・広報活動の工夫（保護者、地域住民、小中学校、企業に開く）	○Facebookや学校ホームページのコンテンツの内容や配置などを新しい視点で更新し、学校生活や寄宿舍生活の様子がわかるようにしている。対面による説明会や広報活動の持ち方を工夫しようとしている。	○Facebookや学校ホームページ、学校だより、YouTube等の様々な媒体で、地域や企業、入学を検討している生徒に対し、学校の啓発・広報活動が進められている。	○学校の魅力発信を意識して、閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新していく。 ○地域や学校への公開や広報活動を拡大していく方向で進めている。			
		○体験入学希望者の減少が見られ、出願者が減少している。 ○コロナ禍で発信の仕方が限られたこともあり、職業的・社会的自立を見据えた進路選択につなげていけるだけの具体的情報が、地域の学校に十分に伝わっていない。	○「琴の浦の教育」について発信したり、地域の関心や疑問に応えたりするための工夫ができている。	○将来の職業生活と本校の教育についてより関心を持ってもらうための工夫をする。 ・学校見学 ・生徒主体の情報提供の場等 ○オープンスクールの実施。 ○県や地教委等と連携し、地域へのPR活動の実施。			
働きやすい職場・成長できる組織作り	○校内研修・授業研究の工夫、（人材育成をベースとした業務改善、時間外業務縮減等）	○時間外業務の縮減が課題となっている。（年間360時間を超える職員が数名いる）	○引き続き、業務改善を図り、時間外業務を縮減する。（月45時間・年間360時間内）	○継続して衛生委員会で時間外業務等の状況を確認し、年間を見通して業務の進め方等を工夫し、時間外業務の縮減につなげる。 ○各行事・活動等の計画・実施について、ねらいや状況に応じて見直しを行い、業務改善を図る。			
		支援部・教務部（再掲）					